

東北公益文科大学

「地（知）の拠点整備事業」

さん頼る



文部科学省

地（知）の拠点

東北公益文科大学

庄内オフィス長 鎌田剛

少子高齢化 人口減少

- 就業機会・雇用、交流人口拡大・観光など新たな産業の創出、6次産業化、地域エネルギー対策

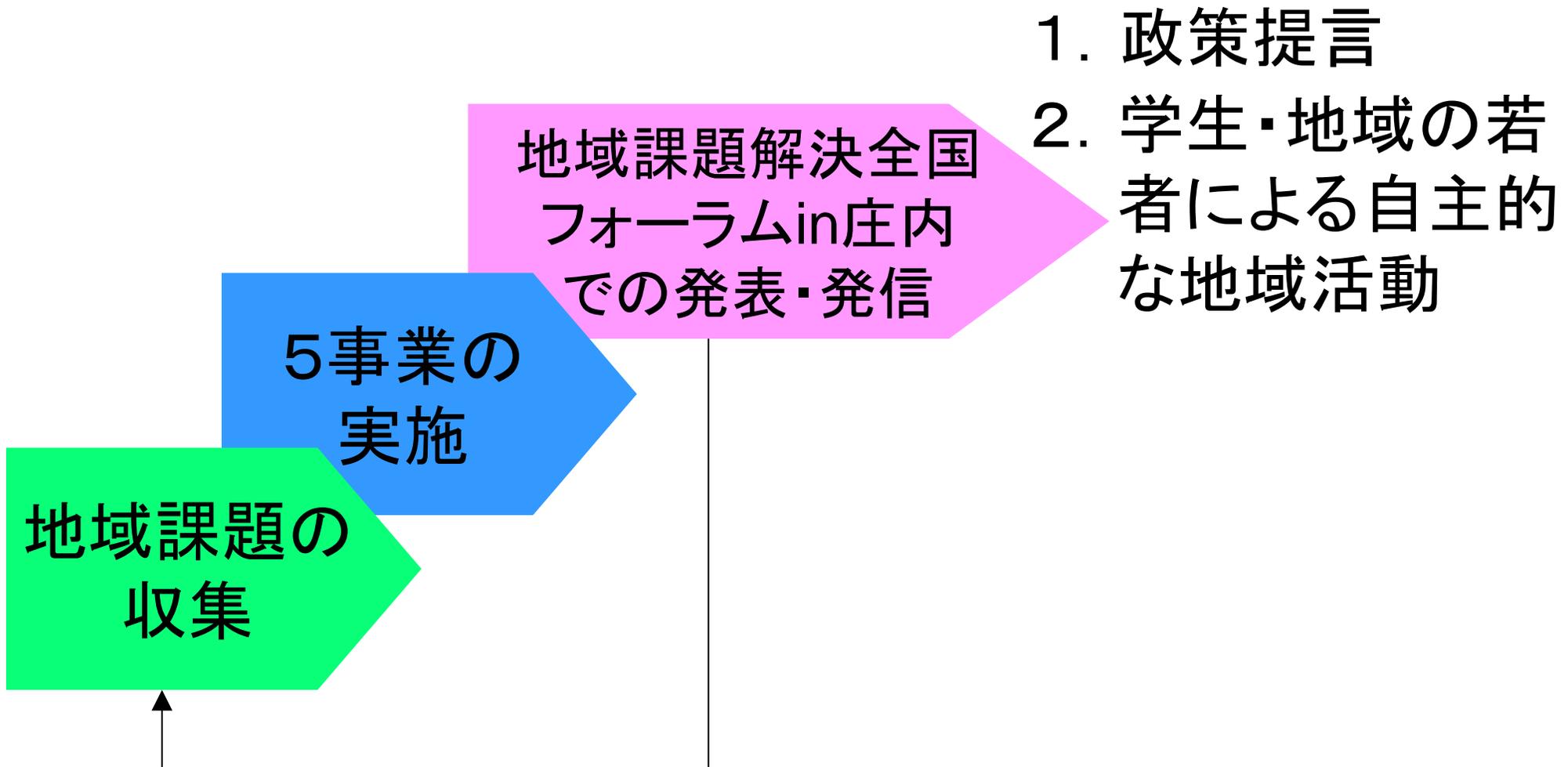
地域力結集による人材育成と複合型課題の解決 — 庄内モデルの発信

連携して事業を実施する自治体の範囲
(庄内総合支庁、鶴岡市、酒田市、三川町、庄内町、遊佐町)



山形県

事業の基本プロセス



地域からの声を事業に反映

円卓会議(26年3月)等において、本学が設定した7つのテーマについて、様々な意見・提案を収集。

① 就業機会・雇用の創出

② 交流人口の拡大
観光産業の創出

③ 農商工連携・
6次産業化の進展

④ 地域エネルギー
の拡充

⑤ 主体的な
コミュニティ組織

⑥ 中山間・離島地域の
集落の維持

⑦ 空き家・空き店舗等の活用
中心市街地の空洞化解消

人口・世帯数の減少、自治体消滅の危機

地(知)の拠点「円卓会議」



円卓会議

| | 就業機会・雇用の創出 | 交流人口の拡大・観光産業の創出 | 農商工連携・6次産業化の推進 |
|---|---|---|---|
| <p>地域エネルギー対策</p> <p>○地熱エネについて、東北6県で山形だけが助成金・補助金をとっていない。</p> <p>○設備コスト、採算性、技術について、地域とのコミュニケーション、相互理解が必要。</p> <p>○学生が関わって解決できるレベルの問題もある。たとえば、使われていない土地と発電事業者とのマッチング。</p> | <p>主体的なコミュニティ組織</p> <p>○担い手が高齢化し若い人が入りにくい。世代間ギャップがある。</p> <p>○視点が違う人とのコミュニケーションがとりづらく、話し合いから結論を出しにくい。</p> <p>○なぜ庄内に若い人が戻らないのか？</p> | <p>中山間・離島地域の集落の維持</p> <p>○移住者がトライアルで中期滞在できると良い。</p> <p>○移住者の受け皿をはっきりとみせることが大切。</p> <p>○移住者が多くすんでいる西川町大井沢では、伝承館でIターン者が講師をしている。</p> <p>○移住者を増やすには、人と人をつなげる、企業を巻き込む必要がある。</p> | <p>空き家・空き店舗等中心市街地の空洞化</p> <p>○ちょっとずつ若い人が街中でカフェをしている。もっと増えて欲しい。</p> <p>○中心部が観光の魅力になる(歴史、文化)</p> <p>○中心市街地に人を集めることと、住まわせることはワンセットの課題だ。</p> <p>○るんるんバスの活用策を考えてはどうか。</p> |
| | <p>○地域で満たされていないニーズを満たすビジネスを起す。</p> <p>○イベントによる機運作りが大切。起業イベント(スタートアップ・ウィークエンド)を庄内でやりたい。</p> <p>○起業家のロールモデルがない。起業する人が増えれば、起業が身近になる。</p> | <p>○みんなで作り上げる新しいイベントをやる。新潟では学生、NPO、行政が連携して雪の上に小さなLEDをばらまいてイルミネーションを作り観光客に好評。</p> <p>○庄内人は恵まれていることに慣れすぎている。外から来た人のほうが魅力を知っている。</p> <p>○農業と子育てのタイアップイベント、共通の趣味の人による婚活イベントが有効。</p> | <p>○第三者による魅力発信が重要。</p> <p>○外国の人に魅力を伝える工夫が必要。</p> <p>○農家体験、グリーンツーリズム、ホームステイなどが有効。</p> <p>○小ロットでも買いたい人に結びつけるサプライチェーンが必要。</p> |

| | | | |
|---|--|--|--|
| 地域課題共有検討会 | 就業機会・雇用の創出 | 交流人口の拡大・観光産業の創出 | 農商工連携・6次産業化の推進 |
| | <p>○学生が地元の中小企業を知らない。カリキュラムに盛り込めないか。</p> <p>○庄内地域の起業家と学生が知り合う機会を大学で設けてほしい。</p> <p>○これまで各行政機関で行ってきた調査がたくさんあるので、それらのアーカイブ機能を大学で担当してほしい。</p> | <p>○観光客と直接接し、生の声を聞いている方を見習うべき。</p> <p>○コストを抑えつつ情報発信をすることが得意な人材が必要。</p> <p>○各地域で同じようなイベントがバタニングし、客を引っ張り合っている。イベントの整理と連携が必要。</p> | <p>○全体的な底上げを狙うのではなく、やる気のある人を育てる。成功事例が生まれれば、自然と後が続く。</p> <p>○「庄内ブランド」を農産品・畜産品・水産加工品など、トータルな食の魅力として確立する。</p> <p>○外へ発信するため、若い学生のセンスが必要。</p> |
| 地域エネルギー対策 | 主体的なコミュニティ組織 | 中山間・離島地域の集落の維持 | 空き家・空き店舗等中心市街地の空洞化 |
| <p>○地域についてのエネルギーのデータを集めて整理してほしい。</p> <p>○市民ファンドを立ち上げられるような人がいるといい。</p> <p>○バイオマス産業都市構想（農水省）において、バイオマス導入の経済効果を求めるのに大学と協力できる。</p> | <p>○組織を引っ張る方は年配が多いので、次代を担う20代の育成のために、小さいうちからの関わりが必要。</p> <p>○学校とコミュニティ活動をもっとうまくつないでいけないか。</p> <p>○企業も巻き込んで様々な地域の取り組みを行えないか。</p> | <p>○防災等、身近な問題について当事者意識を持てるようにコーディネートしていける力が必要。</p> <p>○ある地域が元気に見えることで広がりが見られる。</p> <p>○若者である学生を地域住民にうまく活用してもらおう。</p> | <p>○開学の頃は教員が学生を連れて街づくり活動をしていたが、地元住民とじっくり行かなくなったときに間に入る人がいなくなったり、卒業生の後を埋められなかったりと、継続性に問題があった。</p> <p>○酒田ミュージックフェスティバルは学生の継続的な自主的活動として評価できる。</p> |

首長・支庁長ヒアリング

就業機会・雇用の創出

- 若者がなぜ地域に定着しないのか。(総)
- 地元の企業を知ってもらうことに力を入れないといけない。(総)
- 人口の半分は女性。女性の働く場をどうつくり上げるか、といった研究テーマはどうか。(鶴)
- 地元就職先が無いという若者、その親の意識をどう変えるか。(酒、三)
- ベンチャーの起業、若い世代のビジネス創出など大学・学生との連携に期待。(三)

交流人口の拡大・観光産業の創出

- 庄内は発信力が弱い。旅人の目で地域のことを正確に発信していく。(総)
- 自分の心を鍛える意味でのツーリズム。三大祈祷所の一つもある。(鶴)
- 地域の中に学生が入れるような、ニーズに合わせた関わりを期待。(三)

農商工連携・6次産業化の推進

- 「食の都」として、庄内のイメージの定着を図れないか。(総)
- 花、畜産物などのブランド化が重要。(庄)
- 秋田、新潟両方向の高速道路路網の整備が重要。防災機能も備えた休憩場所が不可欠であり、パーキングエリア構想を実現したい。(遊)

地域エネルギー対策

- 庄内は送電網が脆弱。風力だけでなく、波力、バイオ、小水力やスマートグリッドはどうか。飛鳥は渡り鳥等の観点から反対の声あり。(酒)
- 自然エネルギーをどこまで活かせるか。地域に豊かさがもたらされる仕組みが足りない。(遊)

主体的なコミュニティ組織

- コミュニティセンターを社会教育だけでなく、福祉、防災、まちづくりなどを学ぶ、活性化センターにできないか。(鶴)
鶴岡には469の地域コミュニティ、自治会組織がある。そこが基礎的な力を付けていかなければならない。(鶴)
- 自治体で実施できる「人材育成モデルの開発」などを研究してもらえないか。(庄)

中山間・離島地域の集落の維持

- 秋田側を含む4市町で、鳥海山・飛鳥を核にしたジオパーク構想を検討。(遊)

空き家・空き店舗等中心市街地の空洞化

- シェアハウスや古民家の活用など、人が一緒にいるだけで安心感。新しい大家族主義もそこから言えるかもしれない。(庄)

事業内容

1. 地域志向の教育カリキュラム
2. 地域課題の研究
3. 課題解決アクションプロジェクト
4. 「庄内地域カレッジ」による地域リーダーの育成
5. 映像発信

1. 地域志向の教育カリキュラム

2系5コース

+

3特別プログラム

地域経営系

○経営コース

○政策コース

○地域福祉コース

交流文化系

○国際教養コース

○観光・まちづくりコース

情報特別選抜

社会福祉士養成課程

エネルギー特別専攻

より実践的なカリキュラムへ

理論・スキル獲得

コース専門科目（他系、他コース選択履修可）

実践

2科目以上
履修

人材育成強化科目

インターンシップ、社長インターンシップ
プロジェクト型応用演習、競争型課題解決演習

人材育成強化科目

○社長インターンシップ・インターンシップ

⇒企業等での実習体験を通じたスキル獲得

○プロジェクト型応用演習

⇒地域や社会の諸課題について解決策を検討

○競争型課題解決演習

⇒企業等から提示された課題に取り組む



インターンシップ



公益大のインターンシップの特徴

- 目的は「スキル育成」
 - 単なる就業体験ではない。
- 事前指導、実習中の訪問指導、事後のレポート指導を徹底。
 - 「対話」を重視。

1.5倍

インターンシップ体験者ほど早く内定。
(直近4年間10月末時点比較)

「社長インターンシップ」

- 地元企業のトップに密着し、
「かばん持ち」を体験する。

「社長の背中から学ぶ」



秋山鉄工株式会社 秋山周三社長

実習内容

- ラジオ体操
- 来客時の話し合いに同席
- 会社周りの草刈り、藤棚のツルの整備
- 来客者の車を洗車
- 電話対応指導、感動工作
- 暑気払いの準備、暑気払いに参加
- 社内報の記事作成
- 社長の自宅でホームステイ etc.





- 社長との草刈りを通して
 - そこで働く人や地域の人間性が分かる。
 - 工場でいくらすごい技術があっても外からは何も分からない、内面は見えない。
 - 「技術を磨くよりも人間性を磨く」



- 「メンタル面が強くなった」





株式会社大商金山牧場 小野木重弥社長

● 1日目

6:30 早朝勉強会

7:50 清掃・環境整備

9:50~16:45(この間来客4名)

● 2日目

5:00 酒田発(6:10山形支店着)

7:30 カット事業部ミーティング①

9:00 社員面談

10:00 カット事業部ミーティング②

11:00 15:50(この間来客3名)

16:20 打ち合わせin 芸工大

18:30 飲みニケーション

● 3日目

5:30 天童倫理法人会モーニングセミナー

8:20 山形支店出社

8:30 社員面談

11:30 酒田本店 着

15:00~17:10(この間来客3名)

● 4日目

7:50 清掃・環境整備

10:00~11:30(この間来客3名)

13:30 ミートセンターで打ち合わせ

14:45 岩手まで移動

18:30 飲みニケーション

● 5日目(最終日)

8:50 岩手にて、イオン社員向け展示会

10:00 展示会 開始

15:00 展示会 終了

15:30 片付け

19:00 酒田 着 (全日程終了)

学生のレポートから(1)

「社長の1日は長かった」

「実習の3日目を例にあげると、早朝5時30分には山形市から天童まで移動し、倫理法人会のモーニングセミナーに参加。その後8時30分には社員面談を行い、11時30分には酒田の本社まで戻り、来客3名と対談している。終業の17時を過ぎても帰れないことがほとんどである」

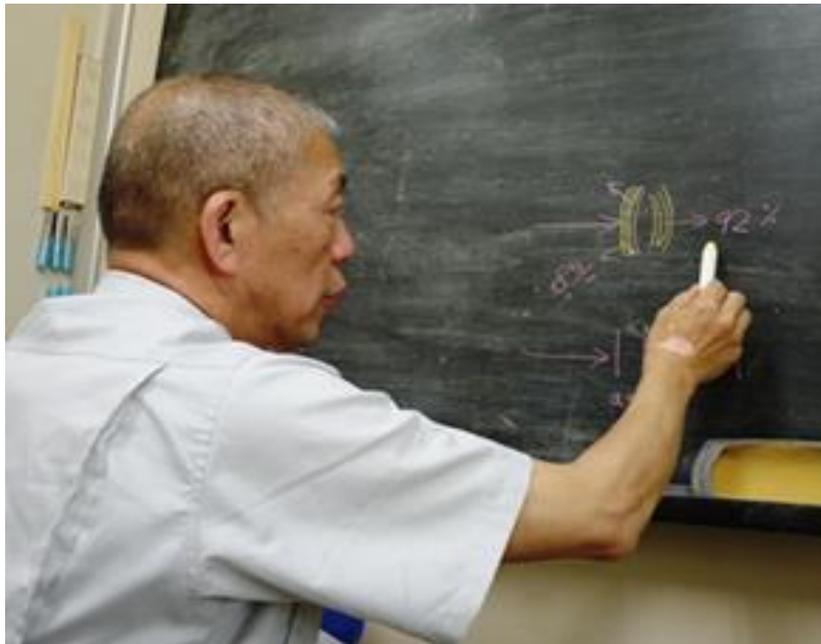
学生のレポートから(2)

「社長の仕事は決断することだ、と常々社長や幹部の方がおっしゃっており、しかも決断はすばやく・正確に行う必要があるという。このようなこともあり、社長の仕事を相対的に見ると、決断に関することが多かったように思う」

「しかし、細かくみると、決断をする時間よりも、決断するための情報収集の時間が一番長かったように感じる」



教員も「社長インターン」。



2. 地域課題の研究①

地域資源としての潜在的価値が高い建造物の維持・活用に関する研究

松山薫 准教授

自然保護と共存する観光、地域と取組む新しい観光の形

中原浩子 特任講師

地域課題解決と人材育成の実効性を高める
Project Based Learning(PBL)手法の開発

神田直弥 准教授

住民主体の地域福祉推進の方法に関する調査
研究～小地域における地域福祉活動計画策定
プロセスを中心に～

武田真理子 准教授

庄内地域の水環境保全ガバナンスのあり方に関する研究

内藤悟 准教授

2. 地域課題の研究②

| | |
|--|------------------|
| <p>人材育成の方法としての「聞き書き」に関する領域横断的研究-「庄内の達人プロジェクト」の実践を通して-</p> | <p>伊藤真知子 教授</p> |
| <p>庄内地域における若者の地元定着の要因と意識構造に関する研究</p> | <p>山口泰史 特任講師</p> |
| <p>人口減少時代の自治体職員研修の開発に関する研究-庄内地域における官民連携・協働による地域課題解決に向けて-</p> | <p>和田明子 教授</p> |

3. 課題解決アクションプロジェクト

地域力結集のための4つの要素

資源活用

地域に存在する未利用資源や、大学・企業等の人的資源、地域の先達が有する様々なノウハウなどの資源を活かす。

連携強化

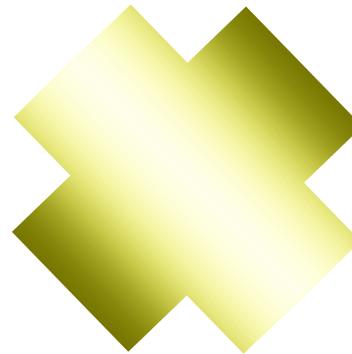
行政機関はもとより、企業、NPO、地域住民やコミュニティ組織など、多様な関係者との連携・共創を強化する。

多様な住民参画

地域のリーダー層のみならず、将来を担う子ども、中高生など、多様な住民の参画を促す。

創造・アイデア・イノベーション

これまでの枠組みや慣行を学びつつ、必ずしもそれにとらわれない柔軟な取り組みを積極的に取り上げ、新たな価値を創造する。



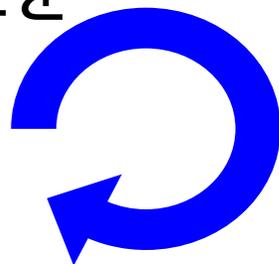
①就業機会・雇用創出

庄内経営者塾

企業経営者、各界の有識者が登壇。起業志望の学生を指導する。

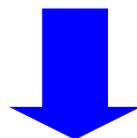
コワーキングスペース

地元若手起業家と学生・教員が利用。庄内に起業家ネットワークを形成する。



Startup Weekend Yamagata

54時間で起業の仲間づくりを行うイベントに挑戦



ビジネスアイデアのプラン化、スタートアップへ
地元政策金融公庫との協定も締結

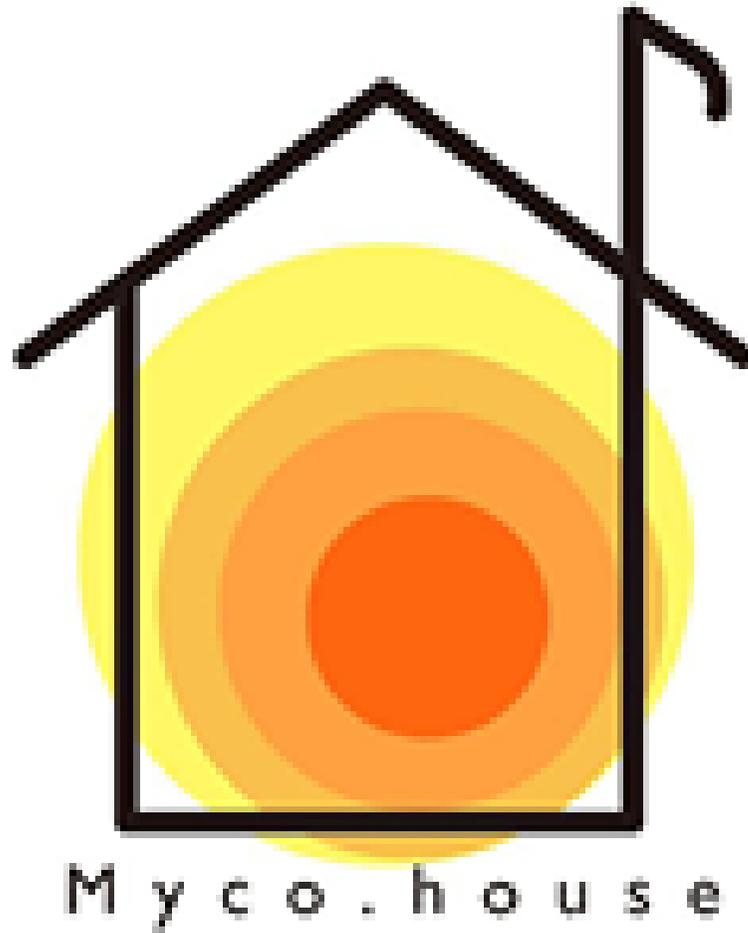
庄内経営者塾



Startup Weekend Yamagata



中心商店街に学生シェアハウスを







②交流人口の拡大・観光産業の創出

新たな観光産業の創出

「日本海から見た庄内—新たな観光産業の創出を目指した
広域連携モデルの構築」

- ①飛島・酒田湊地区
- ②加茂・湯野浜地区

飛島の「海ゴミ」をテーマとした
観光ツアーや加茂地区の案内
表示の設置場所等も検討。



②交流人口の拡大・観光産業の創出

おもてなし・魅力発信

山形DC(6月14日～9月13日)期間中
「酒田おもてなし隊」を結成し
毎週末酒田駅で活動



旅館向けに、便利な
英語標記を記載した
「外国人おもてなし
マニュアル」を作成。



②交流人口の拡大・観光産業の創出

鳥海山プロジェクト

自然保護と共存する新しい観光の形を模索。地域にビジネスとして資金が循環する仕組み作り、災害・遭難対策の情報を登山客に届けるビジターセンター構想にも取り組む。

県内団体と提携して将来的に山形県全体と環鳥海をつなぐロングトレイル創りも視野に入れる(ジオパーク構想へ)。

山塾

第1回

自然保護と共存する観光

~~地域と取り組む新しい観光の形~~



③農商工連携・6次産業化の推進

複合・兼業経営の潜在力 発揮のための条件整備

地域住民が隙間時間を活用して地域の農業を支える多様な働き方を実現する仕組みを検討(アプリ開発)

農業生産費の中で大きな割合を占める農機具費(米で約2割)についても、過剰投資を抑制する仕組み(地域資源シェアリング等)が構築できないか検討

6次化・アグリパーク 構想の推進

「アグリパーク構想」の意義や課題について、1・2・3次の各産業の異業種が連携し検討。

農地の担い手への集約等の結果生じた農作業労働の余力を、6次産業で吸収し、活かすための研修や、プロジェクトを検討・実施。

④地域エネルギー対策

風力

本年8月～、本学、鶴高専、民間事業者による非公式な意見交換会を実施。

- ①環境アセスを含む立地規制
- ②送電容量不足に対応するためのインフラ整備
- ③地域の事業者への資金制約が課題。

上記について28項目の政策提言としてとりまとめた。

小水力

風力や太陽光のように、様々な民間事業者が売電事業に参画できる水路の利用ルールの明確化を図る必要。

- ①水利権などの権利関係が複雑
- ②関係行政機関や利害関係者が多岐に渡る

これらを協議する円卓会議を設置し、全国のモデルとなるような検討、導入(28年度実証、29年度本格導入)を目指す。

庄内小水力利活用推進円卓会議



⑤主体的なコミュニティ組織（防災・見守り）

コミュニティの維持・発展のための人づくり

地域に固有の課題（生活、防災、交流、移住・定住）を解決していくための様々な活動を通じて、地域コミュニティの強化と進化を目標とする活動。

地域に住む・集う人々が、安心・安全・快適な満足度の高い生活をおくる環境を創り上げることで、地域コミュニティ自体の活性化図る。



⑤主体的なコミュニティ組織（医療・介護）

医療・介護のことを「自分ごと」として捉え、専門家や行政と共に、「地域包括ケアシステム」の構築に主体的に参画する市民コミュニティを育てる。

サロン、コミュニティカフェ

地元食材をつかった
食育・介護食教室

ダイアログ
(対話)

やまがた多職種連携学生ネットワーク



×



NPO法人 ミラック
Innovation with Dialog

×

庄内地域医療連携の会



やまがた多職種連携学生ネットワーク



⑥中山間・離島地域の集落の維持

酒田市八幡日向地区、飛島

自主防災計画づくりに寄与する調査・立案、防災・減災意識を醸成するための研修会などを、地区住民と共に実施。

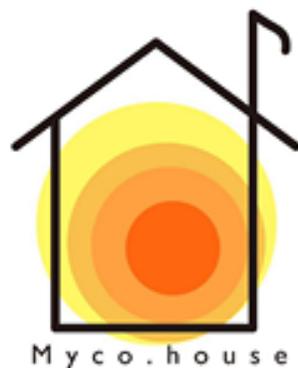
地域の自然・地理的背景、生活やコミュニティ形成のあり方を理解。地域の実情に即した計画づくりや意識向上のために必要な視点を発見し、具体策を提案する。

⑦空き家・空き店舗等中心市街地の空洞化

空き家の活用を、UIJターンの促進につなげる

UIJターン検討のための、短期ホームステイ受け入れ態勢の構築。空き家リノベーション旅館(お試しUIJターン)を開発し、気軽に中長期間庄内に滞在できる体制を作り上げる。

空き家リノベーション賃貸スキーム開発。都会からの移住を促すために、賃貸物件でも自分好みにリノベーションできる物件を提供できることを目指す。



を前例として検討

4. 「庄内地域カレッジ」による 地域リーダーの育成

地域課題解決の6つの段階と8つのワーク

1. 発見 (a.気づく)
 2. 共有 (b.わかち合う)
 3. 調査研究、課題理解 (c.知る・深める)
 4. 課題解決策の立案 (d.考える)
 5. 合意形成 (e.話し合う)
 6. 実践 (f.行動する)
(g.発信する)
- (h.ふりかえる)

「庄内地域カレッジ」

- 子どもプログラム、中学生プログラム
 - Koeki Kids Project

- 高校生プログラム

- 「庄内の達人プロジェクト」

企画・運営

- 若者プログラム

- 「庄内の達人プロジェクト」実行委員会

- 地域リーダープログラム

- ファシリテーション講座(27年度～)

子どもプログラム (Koeki Kids Project) @遊佐小学校

「公益を考える」授業



高校生プログラム「庄内の達人プロジェクト」

- 地域の「達人」への聞き書きを通じて、庄内はどのような人の思い、はたらき、関係で成り立っているのかの理解を促し、地域社会との交流機会が少ない高校生の地域参加を促すプロジェクト。

「聞き書き」とは、話し手の言葉を録音し、一字一句すべてを書き起こしたのち、ひとつの文章にまとめる手法です。話し手の語り口でまとめられた文章からは、“名人”の人柄が浮かび上がり、参加高校生はこの「聞き書き」を通して、名人の知恵や技、そして生きざまやものの考え方を丸ごと受けとめ、学びます。

聞き書き甲子園ホームページより(抜粋)
<http://www.foxfire-japan.com/prof.html>

「庄内地域カレッジ」開講記念シンポジウム

- 基調講演

- 「若者には何ができるのかー小布施町若者会議の経験から」大宮透氏（小布施町ソーシャルデザインセンター研究員）

- パネルディスカッション

- 高校生 × 庄内の若者（在住者、Iターン者） × 学生、卒業生

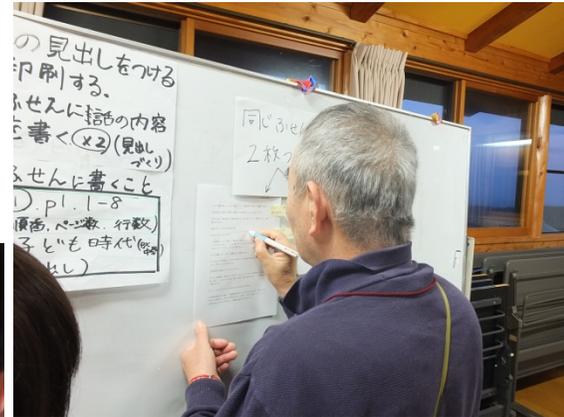


「庄内の達人プロジェクト」合宿

- 聞き書き作家の塩野米松先生による講義と実習
– 高校生4名と学生・教員による1泊2日の缶詰合宿。

①インタビュー項目の検討

②インタビューの実施



③テープ起こし、レポート作成



聞き書きの実施

- 高校生4名と、本学学生4名が庄内の「食の達人」への聞き書きを実施。
 - 菓子店主、地域特産物栽培家、畜産家、農家、農業法人、すし店主、そば店主、家庭料理家
- 高校生の聞き書きのまとめを学生・教員がサポート



報告会、出版へ

● 報告会

– 平成27年3月15日(日)9:30受付開始

• @さかた街なかキャンパス2階

– 10:00～庄内地域カレッジ「聞き書き成果報告」

・高校生、大学生による活動報告、

・講評、修了証授与(聞き書きマスター認定証)

– 11:40～昼食交流会

– 13:30～「聞き書き研究会」

– 「富山福祉短期大学における『聞き書き』の取り組み」と討議

» 富山福祉短期大学講師 下田裕子氏

– 16:30 閉会

「地域課題解決全国フォーラム」での発表

- 公益大で開催。全国から数百名が参加する「学会」カラーのイベント。
 - － 大学生や高校生の発表を歓迎。



日本地域課題解決学会 / 研究会(27年度設立予定)プレイベント

地域課題解決 全国フォーラムin庄内

町民、自治体、企業、大学、高校、NPO等の幅広い皆様のご参加をお待ちしております

12月20日 土

10:00~17:00(受付:15~)

東北公益文科大学 公益ホール

平成26年

12月21日

9:45~15:00

地域課題解決全国フォーラムin庄内(1日目)

- 基調講演
 - 「地域課題をどのように捉え、解決に導くか」
- パネルディスカッション
 - 「地(知)の拠点整備事業における地域課題への取り組み」
- 実践・研究報告(人材育成、課題解決)
- 地(知)の拠点円卓会議
 - 「公益大が取り組む課題解決プロジェクトに参加しよう！
～教員によるプレゼンテーションと意見交換」
- 懇親会

基調講演 住吉廣行氏(松本大学学長)



パネルディスカッション

山形大 神戸市看護大
愛媛大 宮崎大 本学

(コメンテーター)

住吉松本大学長

西村勇哉NPO法人ミラツク代表



実践・研究報告(29題)



地(知)の拠点円卓会議

- 庄内独自の起業システムの構築と学生アイデア工房「SLIC」
- 自然保護と共存する観光「鳥海山プロジェクト～ロングトレイル構想」
- 小水力・風力等新たなエネルギー資源活用策の検討
- 地域コミュニティにおける防災・見守りの仕組みづくり
- 地域包括ケアシステムの構築に向けた「市民参画」の仕組みづくり
- 子どもたち目線のまちづくり「子ども未来白書」



地域課題解決全国フォーラムin庄内(2日目)

- 地域課題解決アクションプロジェクト

推進シンポジウム&ワークショップ

「食と健康の庄内ー幸せな地域のソーシャルデザイン」

ゲストトーク

ソーシャルデザインとは？

デザイン事務所NOSIGNER
代表 太刀川英輔氏

クロストーク

「食・健康」からみた地域づくり

シェフ、管理栄養士、医師、
病院連携室主任、映画監督、
研究者、介護食企業、太刀川氏

全体ダイアログ

アイデア出しとプロジェクト化

フロア全員

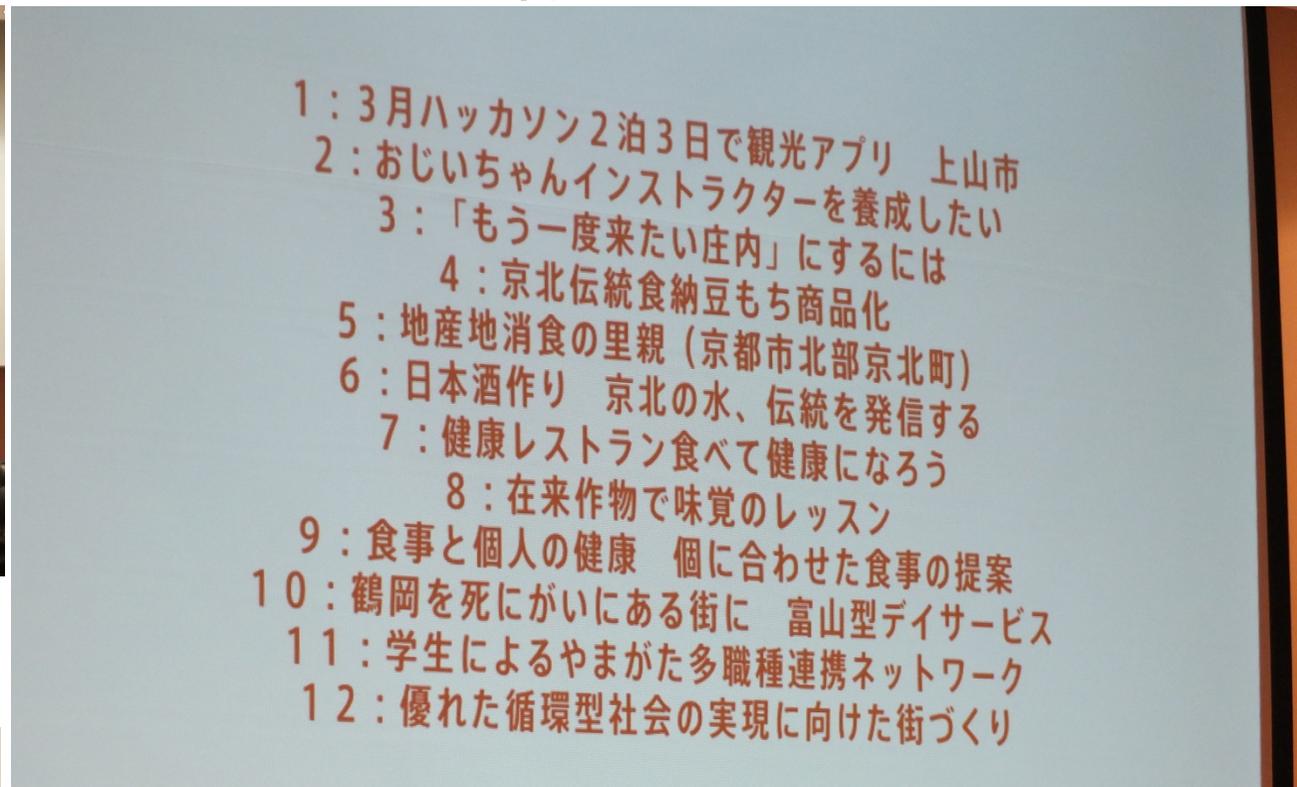
ゲストトーク



クロストーク



全体ダイアログ



これからの**庄内**を**考**えることは**楽**しい。



エイエイオー

連絡先

東北公益文科大学庄内オフィス

0234-41-1115

(個人) g-kamada@koeki-u.ac.jp

(オフィス同報) coc-staff@koeki-u.ac.jp



庄内オフィス



個人